普代村を守った

奇跡の水門

東日本大震災 津波伝承絵本

岩手県 普代村

普代村を守った 奇跡の水門 東日本大震災 津波伝承絵本

岩手県 普代村

普代村を守った

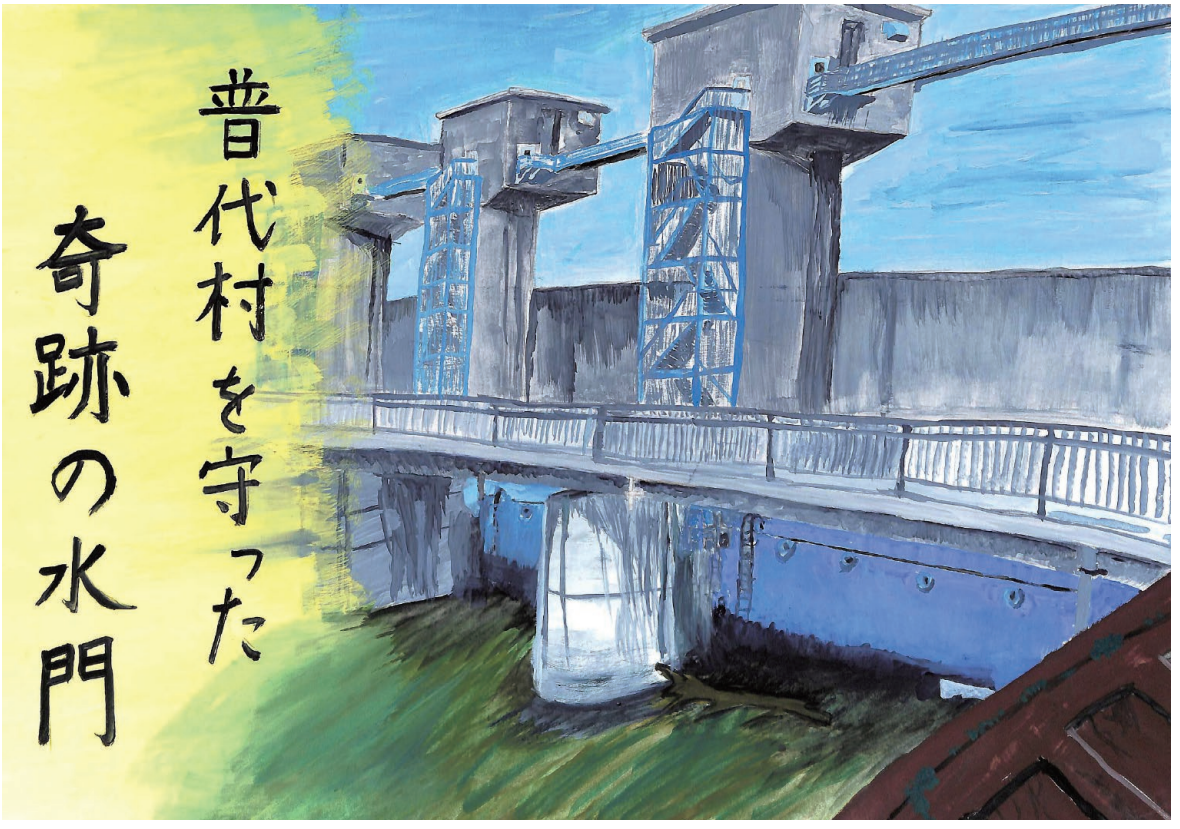
奇跡の水門

東日本大震災 津波伝承絵本

普代村を守った

奇跡の水門

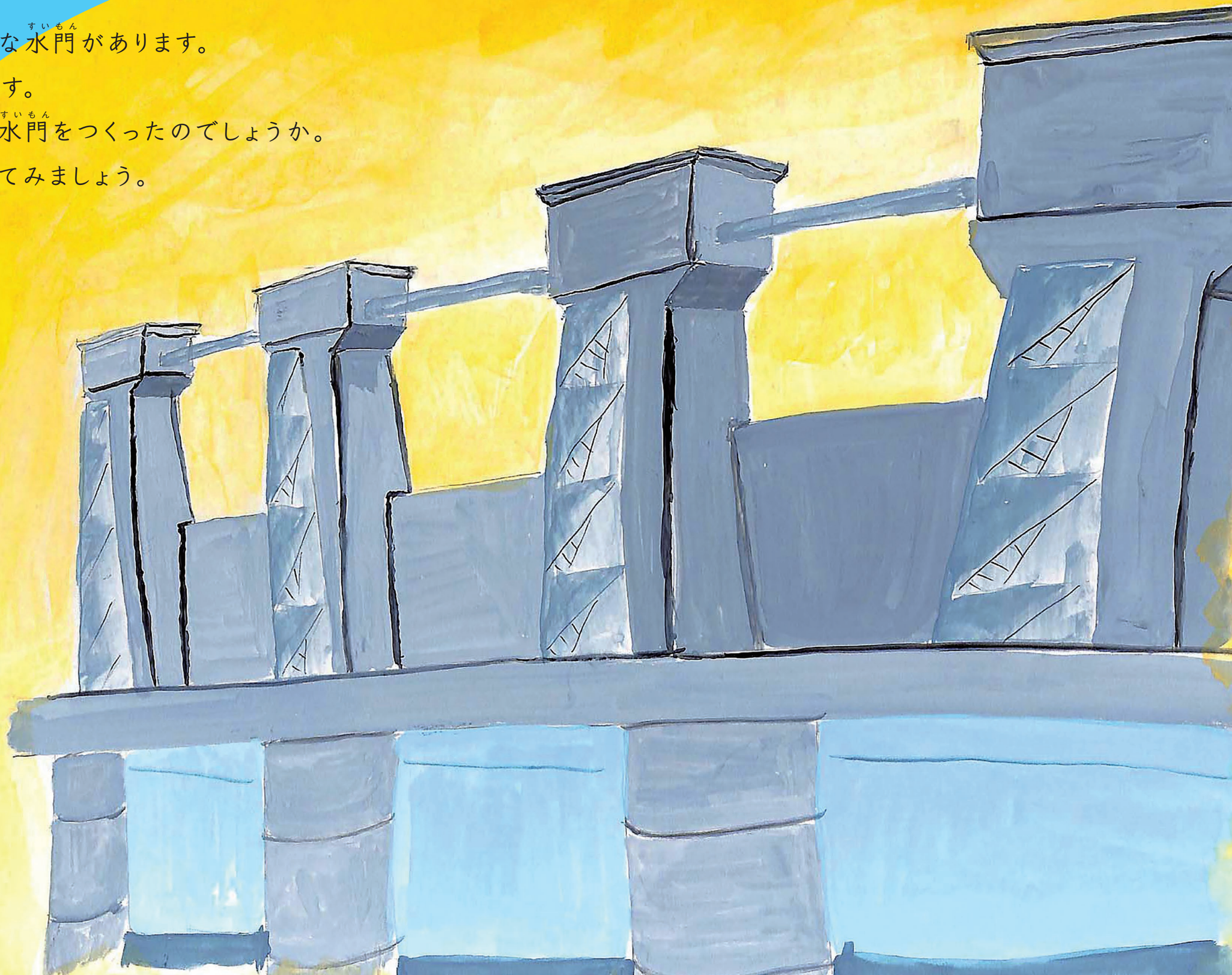
東日本大震災 津波伝承絵本



作・追手門学院大学「普代村・村づくり支援プロジェクト」

日本の北のほう、岩手県には、
海のちかくに村があります。
そこには「こんぶ」や「わかめ」
「しゃけ」「いくら」といった、
美味しい食べ物があります。
昔からつづくお祭りもあります。
これはそんな、
普代村でのお話です。

村には大きな大きな水門があります。
普代水門といいます。
いったい誰がこの水門をつくったのでしょうか。
それでは昔に戻ってみましょう。



ここに水門ができるまえ。
和村幸得村長は考えていました。
「私は大きな水門をつくりたい。2回も大きな津波に
襲われた村を守りたいのだ。」
こうして村に水門をつくろうと思いました。

村長は村の人たちと、話しました。
村長は言いました。
「みんな、きいてくれ！
村に水門をつくりたい！　てつだってほしい！」
しかし村の人たちは水門をつくることに、
反対でした。

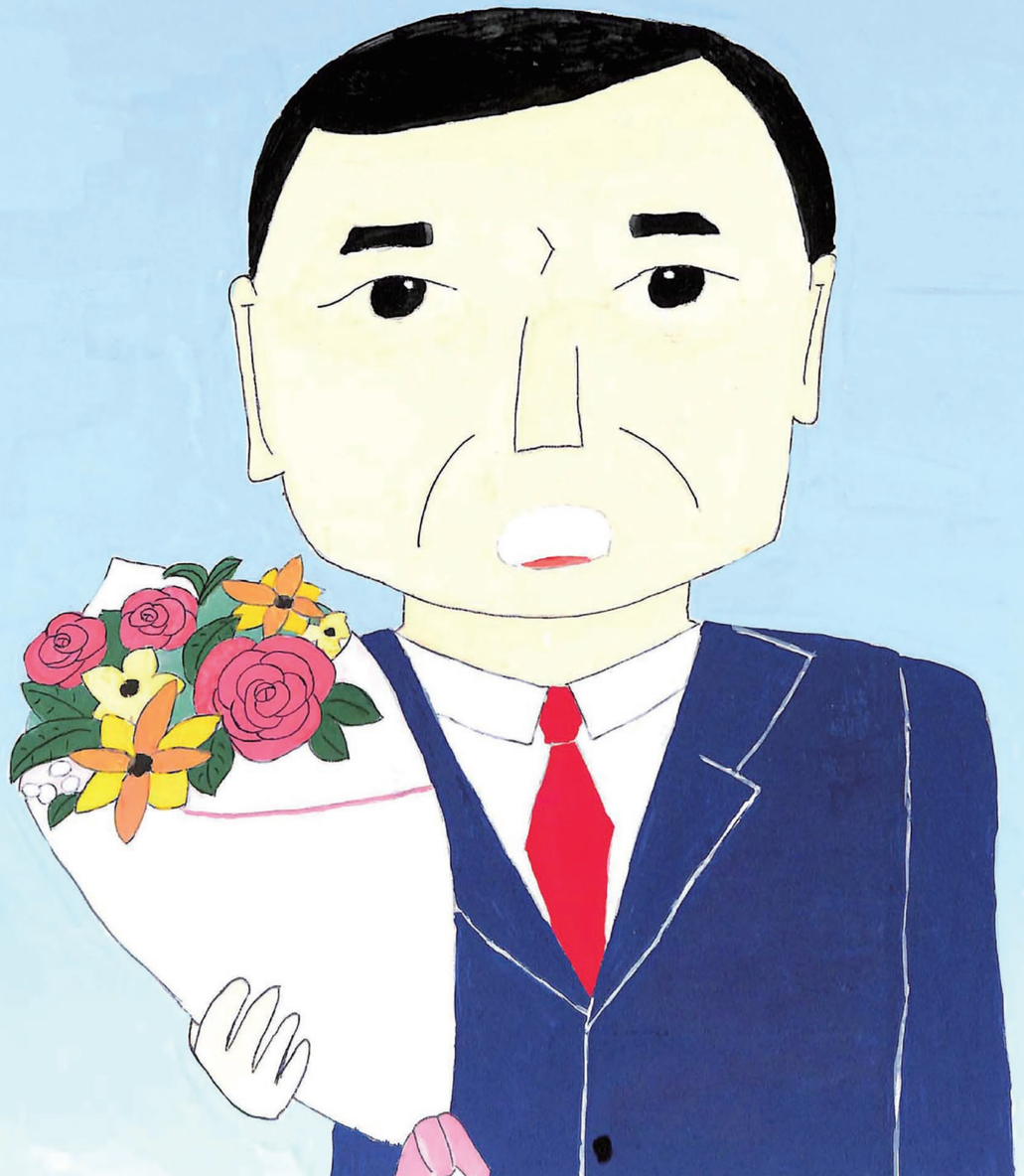
なぜなら水門をつくるには、
たくさんのお金が必要になるからです。
村の人は「津波はいつくるのか？」
「そもそもくるのか？」と心配していました。

しかし村長は水門をつくることをやめません。
「今は水門を作ることを分かってくれる人はいない。
でも、いつか分かってくれる人があらわれるはずだ。
一番大事なのは、ひとの『いのち』だ。」

水門が無事にできました。「みんなありがとう。」
水門をつくることに反対していた村の人たちも
できた水門をみて「大きいなぁ。」
「津波がきても心配ないわね。」と言いました。
でも村長はまだ安心していません。
水門を超えてくる津波が来るかもしれないからです。
「もしものための、準備が大切だ。」

和村村長が引退する日

「村の人たちのためにと思って始めた仕事は、
どんなに反対されても、
話し合いをしてやりぬいてください。」
と言い残していきました。



そして、普代水門(ふだいすいもん)ができてから27年(ねん)たったとき。
その日(ひ)はやってきました。

「津波だ。津波が来るぞー!」
「高いところに逃げろー。」

2011年3月11日。大地震がおきました。

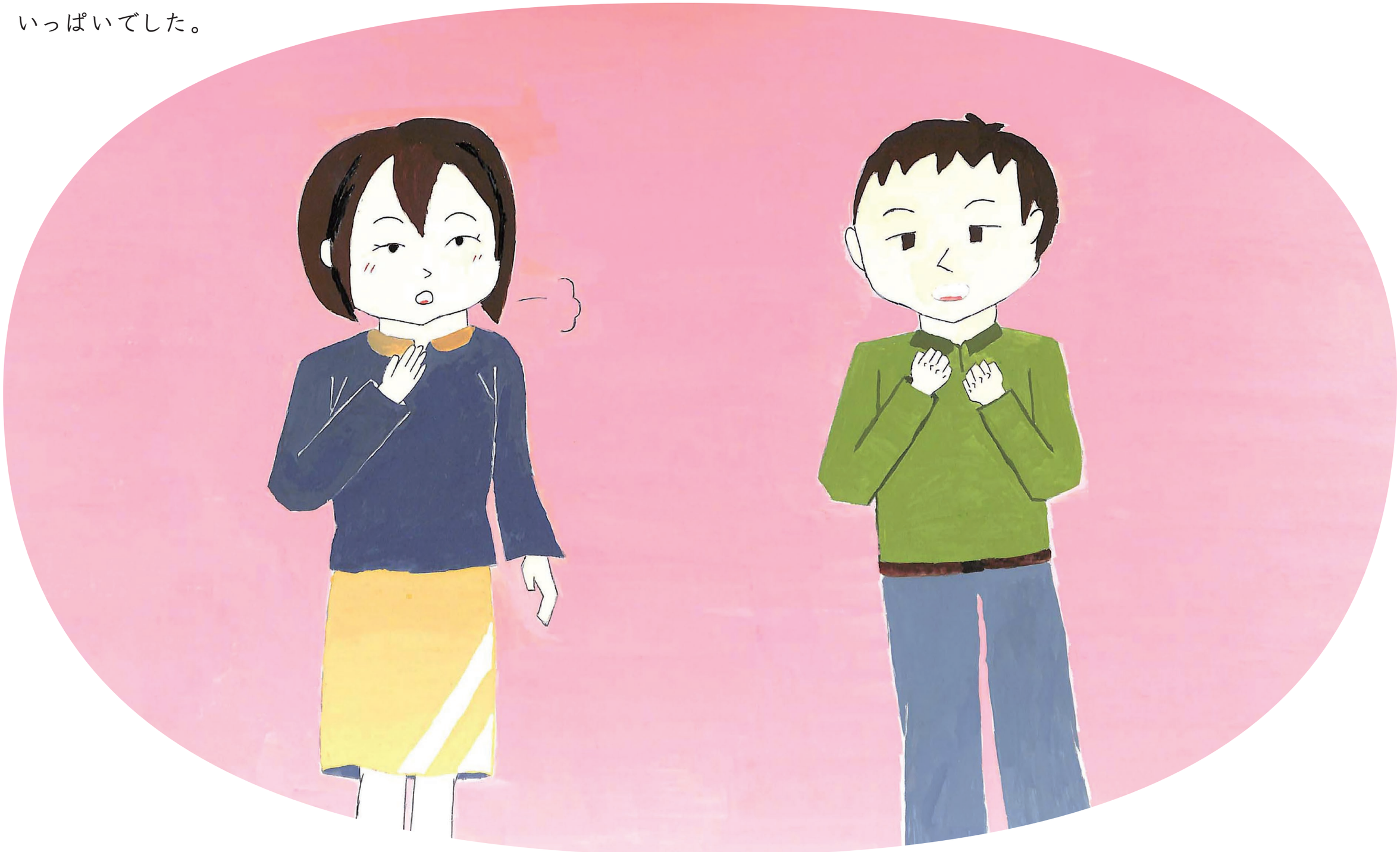
津波がおこって、
家や車、そして人をおそいました。
その津波が普代村にもせまってきました。
「大丈夫。水門が私たちを守ってくれるわ…。」

「大変だ。普代水門が閉まってないぞ！」
「機械が動かない。これでは遠くから
自動で門を閉めることができない。」
このとき、普代水門は故障で
ゲートが閉まらなくなっていました。

「お願いだ。誰か水門を閉めてくれ。」
すると、「私が行きます！」と津波が迫る普代水門へ
1人の消防士が向かいました。
勇敢な消防士は「あきらめたらだめだ！」と
ゲートを閉め始めました。

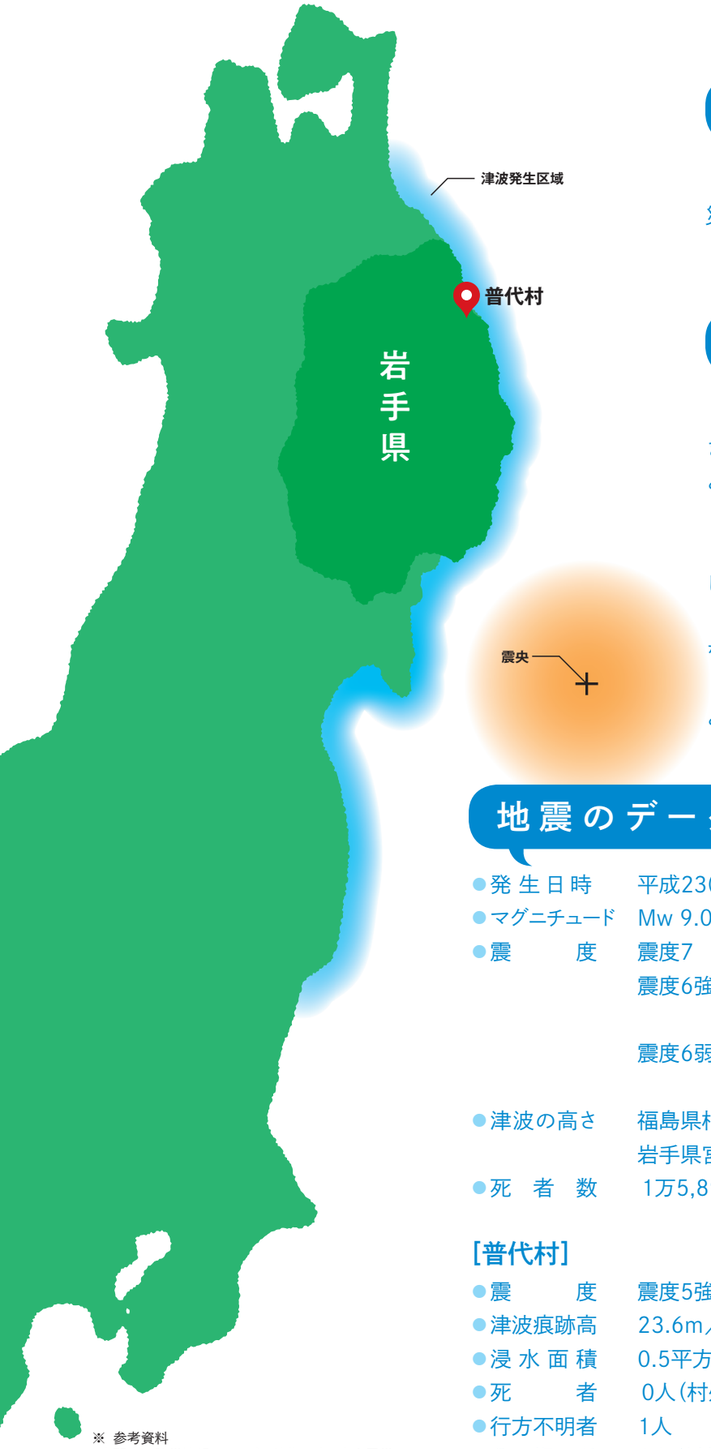
「もう間に合わない、ここまでだ。」
そして、ゲートが閉まりきる前に
津波が来てしまいました。
水門は津波に乗り越えられたものの、
大きな水門だったので津波の力は弱まり、
普代村は無事でした。

普代水門に助けられた村の人たちは
「水門のおかげだわ！」と感謝の気持ちで
いっぱいでした。



普代水門は人の「いのち」だけでなく、
普代村の食べ物、お祭り、
そして美しい景色も守ったのです。

普代水門と東日本大震災（だいしんさい）～3.11（さんてんいちいち）～



この絵本はどんなお話？

平成23(2011)年に「東日本大震災」という大きな災害がありました。
そのときに実際にあったことをもとにしたお話です。

東日本大震災って？

東日本大震災とは、平成23(2011)年3月11日に起きた大地震と、その地震が引き起こした多くの災害のことです。

東北地方の太平洋沖で、とても大きな地震が起きました。
大きな地震は数分間つづいて、その後巨大な津波を引き起こしました。
東日本の太平洋側の地域を中心に巨大な津波が起こり、たくさんの命やまちをのみ込んでしまいました。

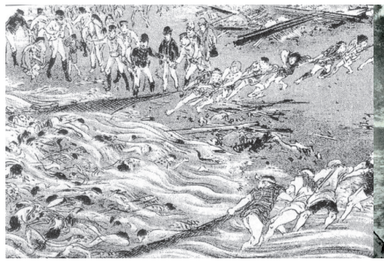
地震のデータ

- 発生日時　平成23(2011)年3月11日(金)14時46分頃
- マグニチュード　Mw 9.0
- 震度
  - 震度7　宮城県北部
  - 震度6強　宮城県南部・中部、福島県中通り・浜通り、茨城県北部・南部、栃木県北部・南部
  - 震度6弱　岩手県沿岸南部・内陸北部・内陸南部、福島県会津、群馬県南部、埼玉県南部、千葉県北西部
- 津波の高さ　福島県相馬　9.3m 以上　岩手県大船渡　8.0m以上　岩手県宮古　8.5m 以上　宮城県石巻市鮎川　7.6m以上
- 死者数　1万5,899人(2020.9.11現在)

[普代村]

- 震度　震度5強／普代村銅屋
- 津波痕跡高　23.6m／普代水門
- 浸水面積　0.5平方km未満
- 死者　0人(村外で死亡した普代村民7人)
- 行方不明者　1人
- 負傷者　1人(村外で負傷した普代村民4人)
- 家屋倒壊　0棟

※ 参考資料
・内閣府　防災情報のページ　特集　東日本大震災
・平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)について　令和2年3月10日消防庁災害対策本部　ほか報道資料など



明治三陸大津波
明治29(1896)年6月15日
地震による被害はなかったが、
津波の被害が甚大だった

昭和の三陸地震津波
昭和8(1933)年3月3日
太田名部地区の津波の被害状況。
ほとんどの家屋が流失・倒壊した

平成の大津波「東日本大震災」
平成23(2011)年3月11日
太田名部漁港をのみ込む大津波。
村内の7つの漁港は壊滅的な被害を受けた

三陸と津波

津波の被害が
特に多かった地域のひとつに岩手県があります。
大昔から大津波はたびたび起こっていて、
三陸の人たちは
「明治三陸大津波」と
「昭和の三陸地震津波」などの記憶を
語り継いでいました。

普代水門って？

このお話に出てくる普代水門は、
岩手県の普代村にあります。
岩手県沿岸北部で、
大きな津波に見舞われた地域のひとつです。
普代村には大きな水門と、大きな防潮堤があり、
地域の被害を小さくしました。

3.11を忘れない

3.11は東日本大震災の別名として知られています。
いつか必ず起きる災害に対して
私たちに何ができるのか。
どんなことを備えるのか。
3.11を忘れないことは、
自分たちの命を守ることにつながります。

資料　普代村と東日本大震災～3.11～

普代村（ふだいむら）とは

- 人　口　約2600人
- 面　積　約70平方km
- 世帯数　約1100世帯

北緯40度線上では世界最東端の地である普代村は、岩手県沿岸北部に位置し、太平洋に面しています。海と山の豊かな自然に包まれ、おいしい食べ物もたくさんある村です。

東日本大震災における、太田名部地区と普代地区の浸水域

東日本大震災のデータ

【地震】

- **発生日時**　平成23(2011)年3月11日14時46分頃
- **震　度　等**　→p.32掲載
- **地震名称**　平成23年東北地方太平洋沖地震
- **地震による災害の名称**　東日本大震災
- **震　源　地**　三陸沖牡鹿半島の東南東約130km付近
- **震源の深さ**　約24km

［用語］

津波高
津波がない場合の潮位（平常潮位）から津波によって海面が上昇した高さの差

浸水高（痕跡高、遡上高）
津波がない場合の潮位（平常潮位）から津波痕跡までの高さ

■明治時代以降の主な津波

1896年6月15日	M8.5	北海道から宮城県までを津波が襲った。岩手県の死者は18,158人。津波の高さは綾里38.2m、吉浜24.4m。明治三陸大津波と呼ばれた。
1933年3月3日	M8.1	青森・岩手・宮城の3県で死者・行方不明者3,064人。津波の高さは綾里で28.7m。三陸沿岸に大きな被害を与えた。「昭和の三陸地震津波」
1960年5月24日	M9.5	南米チリで発生した地震による津波。死者・行方不明者142名。リアス式海岸の岩手県大船渡市では53人の死者が出た。「チリ地震津波」と呼ばれる。
2010年2月28日	M8.8	南米チリの巨大地震に伴い発生した津波が、青森・岩手・宮城の沿岸に到達した。

東日本大震災と普代村

東日本大震災の発生

平成23(2011)年3月11日14時46分頃、三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震が発生しました。普代村では、震度5強の大きな揺れが数分間に渡って続き、およそ15時27分に津波が襲来しました。

普代村の被害

明治三陸大津波（明治29年6月15日）と昭和の三陸地震津波（昭和8年3月3日）で、439人の死者を出した太田名部地区と普代地区では、それぞれ、太田名部防潮堤と普代水門が津波を食い止めたことにより、住家には被害はありませんでした。しかし、主要産業の一つである漁業関連に甚大な被害が生じました。

津波の高さ

太田名部防潮堤　8.9m
普　代　水　門　23.6m（痕跡高:岩手県調べ）

普代村の防災設備

普代村には、ふたつの大きな防災設備があります。この絵本の題材となった普代水門と、それ以前に建設された太田名部防潮堤です。

これらが機能したことで国内外の注目をあつめました。

3.11の普代水門

震災当日、普代村の消防分署は水門を遠隔操作で閉めようとしました。ところが、県道側の陸閘（りっこう）が閉まらなかったため、消防士が直接水門に行って手動操作で閉めました。

非常に危険な状況の中、周囲の状況を同僚が遠隔モニタで確認し、津波が迫っている危険をその場にいた消防団員に伝えることで、水門を閉めに行った消防士も間一髪で逃げることができました。

普代水門から600mほど陸側に形成されている市街地（普代地区）

松林はなぎ倒され、大津波は水門を越えた。管理棟の窓ガラスは津波により突き破られている

普代水門の観測カメラの画像。上は2011年3月11日10時32分頃。下は15時28分頃。水門を越えて押し寄せる津波

普代水門を越えた大津波

普代村の中心部は、普代川に沿って形成されています。普代川河口から約300m上流に防潮水門として建設された普代水門（昭和59年建設、総延長205m、高さ15.5m）は、村中心部に津波を到達させることなく被害を最小限にとどめました。

水門建屋の換気口から海水が入った跡があり、津波は、高さ15.5mの普代水門を越え23.6mまで達したことが分かっています。

南から押し寄せた津波。太田名部の海側の防波堤が津波の勢いをある程度受け流し、その勢いが普代水門へと集まり、さらに狭い河口部分に流れ込んだことで、津波が高くなったと考えられています。

強固な漁港が津波の威力を抑え、住宅が並ぶ防潮堤の内側（写真右側）は被害がなかった

太田名部防潮堤（令和元年）

住宅への浸水を食い止めた太田名部（おおたなべ）防潮堤

普代水門と同じ高さをもつ太田名部防潮堤（昭和42年建設、総延長155m、高さ15.5m）は、津波防災の要でした。

太田名部漁港は昔から大しけや高波でたくさんの被害を受けてきました。そこで漁港を防波堤で囲い、その外にたくさんの波消しブロックを置いています。東日本大震災で太田名部防潮堤は、高さ8.9mの位置で津波に耐え、住宅地への浸水を食い止めました。防潮堤の外側の漁港では壊滅的な被害となったものの、内側は浸水に至らず、住家が守られました。水産業などに携わる村民の多くは一時仕事を失ったものの、住宅が残り生活の基盤を確保できたため、早期の復旧に尽力できたのです。

和村幸得元村長と普代村の津波対策事業

和村幸得元村長は、昭和22年から40年間の長きにわたり普代村の村長を務めた人物です。和村元村長は昭和8年三陸地震津波での普代地区と太田名部地区の悲惨な光景を目の当たりにした経験から、津波防災に情熱を傾けました。

昭和35年、津波対策を求める村民の声に応じ、和村元村長は河川護岸兼用防波堤（普代川堤防）工事を進めました。津波の力は計り知れないので、逆らわずに河川護岸の内側の普代の街を守り、外側には人家を建てないという計画でした。当時、和村元村長は県の土木部への陳情、鈴木善幸氏を説得、建設省への働きかけ、津波研究所へ出向いての研修などを行いました。そして昭和40年、総工費1億円で普代川堤防を完成させました。

昭和42年には総工費5,800万円で15.5mの太田名部防潮堤を建設。しかしその一方で普代地区では徐々に防波堤の外側にも人家が建ち、普代駅や学校を守る必要が生じ、新たな津波対策が必要でした。昭和47年、和村元村長は普代水門の建設に踏み切りました。国と県が負担した一大プロジェクトでした。

当時最大だった田老地区（現宮古市田老町）防潮堤の高さ10mを大きく上回る15.5mの普代水門の計画はその巨大さが批判を浴び、用地取得も難航しました。しかし和村元村長は高さについて一切の妥協をしませんでした。明治三陸大津波と同規模の津波から村を守るために15mの津波高を想定したのです。そして、12年もの歳月をかけ昭和59年、総工費35億円で東北一の高さを誇る普代水門が完成しました。

「村民のため確信を持って始めた仕事は、反対があっても説得してやり遂げてください。最後には理解してもらえる」。和村元村長の言葉でした。リーダーの先見の明と揺るぎない信念で、平成の大津波から村は守られたのです。

故・和村幸得元村長

プロフィール

明治42年	普代村に生まれる
昭和8年	昭和の三陸地震津波にあう
昭和22年	普代村村長に初当選
昭和42年	太田名部防潮堤が完成
昭和59年	普代水門が完成
昭和62年	村長を退任
平成9年	88歳で永眠

参考文献：『貧乏との戦い四十年』和村幸得

大阪にある大学との交流で生まれた絵本

追手門学院大学の学生のみなさんより

追手門学院大学の「普代村・村づくり支援プロジェクト」は同村の振興を図るため、2015年に始まりました。このプロジェクトでは、地域創造学部の学生が、年に2回、普代村まで実際に足を運ぶことで、学生として、あるいは村外から来た者として新しい視点から村の魅力の再発見を試みています。

普代村は緑豊かで、海や山から採れる幸も豊富にあります。また、海沿いにある展望台からは太平洋を見渡すこともでき、その景色の美しさは普代村に行ったからこそ感じることができるものと言えます。しかし、2011年の東日本大震災のときに、その美しい海から津波が押し寄せたことも忘れてはいけません。私たちは、普代水門に焦点を当て防災の重要性を伝えていきたいと思い、紙芝居の制作を始めました。

約一年の制作期間の中で、当時の震災の様子を伺い、学び、多くの方にご協力いただきました。そして、紙芝居だけにとどまらず、それを絵本にする機会もいただきました。現地調査を通して分かった震災の教訓を、この絵本を読んでくださった方々の心に刻むことができれば幸いです。私たちが計画したこの絵本がしっかりと形になったことは感慨深いものがあります。しかし、作って終わりではなく、この絵本を多くの人に読んでもらうことが本来のプロジェクトの目的になるため、これは始まりに過ぎません。過去の出来事として終わらせぬよう、今後も継承されることを願いつつ、私たち自身も引き続き普代村の振興に尽力して参ります。

追手門学院大学　地域創造学部　地域創造学科
「普代村・村づくり支援プロジェクト」メンバー　一同

絵本『普代村を守った奇跡の水門』ができるまで

平成23（2011）年3月11日午後2時46分。

その大地震発生に端を発した東日本大震災から9年が過ぎました。

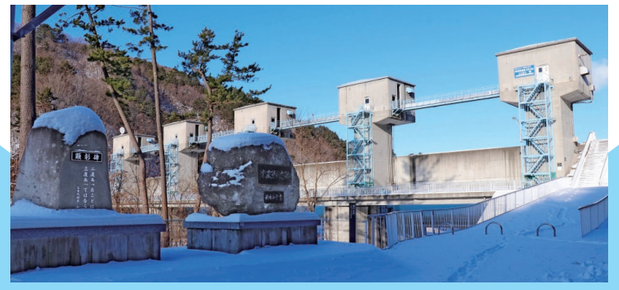
普代村では、漁港は壊滅的な被害を受けたものの、東北一の高さを誇る「普代水門」と「太田名部防潮堤」が機能し、住宅浸水ゼロ、死者ゼロと奇跡的に被害を免れました。残念ながら1人が行方不明となりましたが、多くの人が津波から逃げ、陸閘を閉めに行った消防士も間一髪で事なきを得ました。

過去に村は明治29（1896）年と昭和8（1933）年の大津波で439人もの犠牲者を出しました。漁業を営む人が多い村は、これまで海から多くの恩恵を受け、海と共に暮らし、家族の営みがありました。その営みを、多くの財産を、そして村民の命を未来の大津波から守るため、和村幸得元村長は2つの砦を築きました。その道のりは長く険しいものだったと想像します。

震災後10年が経とうとする今、過去の大津波を知らない子供たちが小学生になっています。その子供たちに津波の教訓を分かりやすく伝えるのが、追手門学院大学との交流プロジェクトで生まれた「津波伝承絵本・普代村を守った奇跡の水門」です。

全国の皆様にクラウドファンディングを呼びかけ、ご支援をいただいて、この大切な絵本を出版することができました。「大津波は必ずまた来ます」。この絵本が子供たちの防災教育に、また、絵本を手に取った方々の命を守る一助になることを切に願っています。そして、ぜひ当村にお越しいただき、15.5mという東北一の高さを誇る普代水門がなぜこの村に必要だったのかを感じていただければ幸いです。

普代村



応援メッセージ

- 全国へ向けて開けよう普代の扉。水門を閉じて万全村民の命。
- 本籍普代村で子供の頃はよく祖父母の家に泊まりに行きました。和村村長の先見性と熱意が村を救ったことに感銘を受け、全国の友人、知人にこの話をしていました。今回の絵本の発行、素晴らしい企画だと思います。普代がいつまでも心の拠り所でありますよう祈っています。
- 『青の国ふだい』を応援し続けます。
- 今回の津波対応をしっかり伝承していくとともに、引き続き、津波に強いまちづくりを進め、次世代の皆様の安心・安全をお祈りいたします。
- この絵本の発行を機に、住民の皆さんへのより正確な災害情報伝達が進み、災害に負けない村づくりがさらに進むことを祈っております。
- 絵本でたいせつなことを次世代へつないでいくことに共感です。
- 昔、普代浜で毎年キャンプをしてお世話になりました。震災直後に訪れた時、近隣の村が甚大な被害を受け、また普代浜の惨状を見た時は絶句しました。同時に、水門の存在に感銘しました。妻の故郷である普代村の水門の奇跡を、ぜひ後世まで語り継いでください。
- 自分自身、東日本大震災の復興支援業務に延べ5年間携わった経緯があります。普代村さんへは残念ながら訪ねることはできませんでしたが、今回のプロジェクトを新聞で知り、とても共感しました。少しでもお力になりたく応援させていただきます。
- 津波を防いだ水門の話が100年200年後に「稲むらの火」の物語のように語られていることを願っております。
- 大津波への備えを実施していた事を伝えてください。
- 新聞で奇跡の水門の話を知りました。友人も在住しています。これからも皆さん頑張ってください。
- ぜひ、若い世代に伝えられ、やがてその次の世代に受け継がれていくことを願っています。
- 八戸市出身で現在は関東在住です。新聞で普代村の奇跡の水門を知りました。友人も在住しております。絵本の出版に少しでも協力出来れば幸いです。
- 奇跡の水門については、かねてより当時の村長さんの先見の明に感銘を受けておりました。2020年8月25日の読売新聞にて絵本出版の資金を募っていることを知り、お役に立てばと微力ながら応援させて頂きます。目標額に達することを祈っております。
- 今日の新聞見ました。活動に敬意を表します。微力ながら応援しています。
- 関東在住、普代村出身者です。震災後のメディア等にて、普代村の奇跡の村、水門の報道がありました。私自身も震災後の5月に帰郷しましたが、同じリアス式海岸の仲間の市町村の被害が甚大過ぎて手放しには喜べませんでした。普代村の奇跡は極めて偶然かもしれない。しかしながら、全体に亀裂が入りながらも、普代水門の勇姿はしっかりと残っております。新聞の記事でこの活動を拝見しました。微力ではありますがお力になればと思い参加させていただきます。
- 普代水門は地域の宝だと思います。防災の町づくりに込めた和村村長の思いを次の世代にも伝えていってください。
- 久慈市の出身で新聞で寄付を募っていることを知り、少しでもお役に立てていただきたいと思っています。普代は帰省するたびに訪れおいしいものをいただいています。コロナに負けず頑張ってください。
- 8月25日付読売新聞の記事を読んで初めて知り、応援したいと思いました。子どもたちの世代に伝えていくべき事と思います。普代村の皆さん、追手門学院大の学生さんたちの奮闘が実りますよう、心から願っています。
- 北海道在住、普代村出身です。和村幸得元村長の功績に敬意を表するとともに、地元の沢山の友人を救って下さったことに感謝申し上げます。微力ながら応援させて頂きます。頑張って下さい!!
- 応援します。この絵本が広く広く、未来へ、行き届きますように。
- 絵本の完成、楽しみにしています。
- 水門で守られた大切な故郷、家族、友人。絵本になるなんて素敵です。
  こんな事があったんだよと、昭和の三陸大津波を語られ覚えた私たちのように、後世のこどもたちの記憶にとどまり、防災・減災意識や故郷への愛、誇りが心に芽生えるよう願います。
- 是非とも成功させましょう!
- 普代の人と自然が大好きです。普代、応援しています。
- 少しでも力になればと思い寄付させていただきました。

この絵本は、たくさんの方々の支援に支えられて発行されました。
※クラウドファンディングへの応援メッセージを転載しています。
※個人情報保護の観点から一部の文言を変更しています。

東日本大震災 津波伝承絵本

『普代村を守った 奇跡の水門』

作・追手門学院大学　地域創造学部　地域創造学科
「普代村・村づくり支援プロジェクト」

発行日　令和3年2月17日
発行者　普代村

〒028-8392
岩手県下閉伊郡普代村第9地割字銅屋13番地2
電話／0194-35-2111　FAX／0194-35-3017

普代村について
(村役場公式ホームページ)

追手門学院大学 普代村紙芝居プロジェクト
(YouTube)

普代水門の様子はこちら
(YouTube)